

「宮の注染^{ちゅうせん}を拓く^{てぬぐい} 手拭」 (全5種)

●平成27年度・館外プロジェクト「地域産業とデザイン ～宮の注染を拓く～」について

「地域産業とデザイン」をテーマに、江戸中期にさかのぼる宇都宮の「染めの歴史」と、これを育んだ「地域の風土」を調査研究し、明治末期から広まった注染の技法に焦点を当て、地域の人々とともに、この技法にふさわしい「宮モダンのパターン・デザイン」を拓いたプロジェクトです。公募で選ばれた5つの原案（受賞作）は、「人々の共創」と「デザインの力」によって、いま・これからの地域内外に人々に愛される、宇都宮らしい普遍的な「宮モダン」の注染反物として完成されました。2016年度 グッドデザイン賞 受賞。

詳しくは、当館サイトをご覧ください ☞ <http://u-moa.jp/event/miyazome2015/index.html>

あわせて、グッドデザイン賞のサイトもご覧ください ☞ <http://www.g-mark.org/award/describe/44548>

【注染とは】 生地に型紙を載せ、防染糊で文様づけし、これに染料を注ぐ「型染め」の一種で、明治時代に考案されました。反物を何度か折り返しながら糊を置いて染色するため、旧来の浸し染めとは異なり、一度に多くの色で生地を表裏をしっかりと染め抜ける、という特色があります。文様の味わいはこっくりとしており、退色しにくいので、手拭や浴衣地で多用されてきました。大正・昭和戦前期、宇都宮は注染に代表される染め物の一大拠点でしたが、繊維産業と服飾文化の劇的な変化のなかで、現在、染色業を営む工場は3軒のみとなりました。

●5種のパターンについて

①大谷石採掘の痕跡（大賞受賞作） | 原案：阿久津幸生

宇都宮に産する大谷石の採掘場壁面に見られる手掘り・機械掘りの「規則的な掘りあと」がモチーフです。

②大谷石の石屋根（準大賞受賞作） | 原案：坂本 明

宇都宮の大谷石建造物の特徴のひとつ「石の男瓦と女瓦を組み合わせた屋根」がモチーフです。

③宮ドット（審査員賞受賞作） | 原案：横山伊織

点と点を重ねて配置することで、宇都宮城に由来する宇都宮市の市章「亀甲」を白で浮かび上がらせています。

④きぶなのぼり（審査員賞受賞作） | 原案：佐々木晴美

人々の健康を願う宇都宮の郷土玩具「黄鮒」をモチーフとし、それが勢いよく川を上る様子を表しています。

⑤田川の水面のきらめき（美術館賞受賞作） | 原案：大庭 亨

宇都宮の染めを育んだ「田川」の水面を、「田」の字を秘める図案、現代テクノロジーも意識させる表現で示しています。

●手拭の素材・技法

素材：機械織り木綿白生地・化学染料 | 技法：手染めの注染

●手拭の販売場所

宇都宮美術館 ミュージアム・ショップ（2018年4/28～） | 東武宇都宮百貨店 5階 和食器売場（2018年5/10～）

●クレジット

企画：宇都宮美術館 | 協力：宇都宮大学 梶原良成研究室・安森亮雄研究室 | アート・ディレクション：株式会社 GK グラフィックス | 制作：株式会社中川染工場 | 制作協力：株式会社東武宇都宮百貨店 | ©宮の注染を拓く 宇都宮美術館